

古文書を読む会学習記録

作成日 2019年5月25日

開催日	2019年5月23日	時 間	10:00~12:00
場 所	区民活動センター	出席人数	13名
講 師	真田 雅行氏	作成者	内田 孝知
テーマ	第二学習 北槎聞略① (大黒屋光太夫漂流記録)		
概 要	<p>20回に亘り学習した「艱難実録」が終了し、新たなテーマの学習に入る 冒頭 元禄(1688~)から嘉永(~1853年)の間の海難事故13件の説明(資料有)、 記録に有るだけでもこの件数、記録に無い事故は如何程の件数で有ったかが推測 される 今回取り上げる「北槎聞略」は天明2年(1782年)伊勢国の神昌丸、船頭大黒屋光 太夫ら17名が駿河沖で大嵐に会い遭難、漂流した海難事故の顛末記。 聴取者は幕府奥医師・蘭学者 桂川甫周(諱 国瑞) 『巻一』 〈序引〉 寛政4年((1792年)9月ロシア船にて伊勢国漂人光太夫他2名、東蝦夷地に送り来 る。漂人は駿河沖にて遭難、アムチトカ島に漂着、その後王都にて女王に謁し、 恩允を得て送還さる。江戸にて召され、尋問を受け、彼国、中国、西洋の事情の 書物となし、書12巻、図2巻を作り出来上がる。寛政六年甲寅八月 臣国瑞謹識 〈凡例〉 内旨を奏して此編を撰するなり、4大部州、所謂亜細亜、欧羅巴、阿弗利加、亜 墨利加是なり、亜細亜に属する著しき国は皇朝支那、印度、韃靼他。 欧羅巴に属する国はポルトガル、イスパニア、フランス他。又阿弗利加、亜墨利 加に属する国は数百に下らず。露西亜は欧羅巴の東北に位置し亜細亜州と接し広 大、この書で言う本国と称するものは露西亜をさし、亜細亜と接するものはシベ リという。本書で記載する地名、人名他は各蛮語を使用し、漢名有るものはそれ を、無きものは和名を記す、等々 〈目次〉の項 学習から外す 〈旨撰〉 ・伊勢国の神昌丸概要、船頭大黒屋光太夫ら17名の名簿(死亡経緯も記載) ・漂人を送還せし露西亜の船名はエカテリナ・ビリガンテンと号し長さ15間、 幅3間弱、護送使臣 官ポロチツク他40名(漂人3名含む)名簿</p>		
次回予定	2019年6月13日 10:00~12:00 於:金沢区民活動センターAB会議室 第一学習 野島浦 鈴木家文書⑱ (鈴木家文書最後の資料編)		